

令和 6 年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立大国小学校

令和 7 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「大阪市教育振興基本計画」において、「最重要目標」として、

(1) 安全・安心な教育の推進**(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上****(3) 学びを支える教育環境の充実**

が掲げられている。この最重要目標に即する現状と課題は下記の通りである。

(1) 安全・安心な教育の推進

保護者・地域・関係諸機関と連携を図り、安全安心な教育の実現に努めている。登下校では、教員が定期的に通学路等の安全確保に努めたり、地域の方々が下校時の見守り活動をしていただいたり、PTAの方が登下校の子どもの見守り活動をしていただいたりしている。また、月に 1 回、校内の安全点検を行い、学校施設の安全整備に努めている。さらに、教職員全員で児童理解を行い、子ども 1 人ひとりに応じた支援に努めている。令和 3 年度末の保護者アンケート「お子さまは、楽しく学校に行っている」に対して肯定的な回答は 96%、「学校は、子どもの安全確保について、積極的に取り組んでいる」に対して肯定的な回答は 96%であった。今年度も 90%以上を維持していきたい。また、令和 3 年度末の児童アンケート「学校はたのしい」に対して肯定的な回答は 93%であった。

今後とも、集団育成に取り組みながら、一人ひとりの子どもに寄り添った教育活動を進めていく必要がある。また、個々の家庭との連携を深め、子どもの生活実態の正確な把握に努めていく。問題等が把握されれば、関係諸機関（こども相談センター、浪速警察署、浪速区子育て支援室、こどもサポートネット、民生委員協議会）等と連携しながら改善に努める必要がある。

(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上

令和 3 年度の学力経年調査の結果においては、標準化得点が 3 年 100.2、4 年 95.7、5 年 93.7、6 年 98.4 であった。

子どもたちの中には、指導者の指示を待つなど、主体的に学習できず、受け身的な傾向がみられる。児童が「学びたい」と思えるように導入を工夫し、互いの考えを交流する対話的な学びを大切にしながら、まとめのときも「なぜ」の疑問を大切にすることにより、主体的、対話的で深い学びを推進していく必要がある。

また、社会的な事象を直接見たり、聞いたり、触れたり、また人と出会い話をしたりすることを通して、自分の生活との関連などを具体的に考えたり、行動したりすることができるように体験的な学習活動も取り入れていく必要がある。

さらに、令和 4 年 1 月の児童アンケートで「本を読むのが好き」と答える児童は 79%であった。読書をすることにより、読み取る力が向上すると考えるので、今後も本を読むことの面白さに気付けるような取り組みを進めるとともに、学校や家庭で読書時間を増やす啓発活動をしていく必要がある。

体力については、令和 3 年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果では、本校男子では、握力、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げで、大阪市男

子平均を上回った一方で、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では下回った。本校女子では、上体起こし、反復横とび、立ち幅とび、ソフトボール投げで、大阪市女子平均を上回った一方で、握力、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では下回った。特に、長座体前屈、20mシャトルラン、50m走では、男女ともに大阪市平均を下回った。今後はより一層、柔軟体操に取り組んだり、持久力や走力向上のための取り組みを進めたりしていく必要がある。

(3) 学びを支える教育環境の充実

本校では、令和2年度からPepperを導入し、PepperをはじめScratchやViscuitなど、児童の実態に応じたソフトを活用しながらプログラミング教育を進めている。また、一人一台学習者用端末を活用し、生活科や総合的な学習の時間において、タイピングの学習も進めている。タイピングの学習をする際は、キーに応じた指でタイピングができるように、タイピング入力表を1人に1枚用意している。さらに、一人一台学習者用端末や大型テレビを活用して、自分の考えをパソコン上でまとめたり、発表資料を作成したり、まとめた資料を友だちや学級全員で共有したり、大型テレビを活用して発表したりする取り組みを進めている。

上記のような取り組みを進められるように、一人一台学習者用端末の整備、Wi-Fi環境の整備、ケーブル関係の整備などにも取り組んでいる。

校内研修会では、外部講師を招聘して研究授業を実施したり、一人一授業を実施してすべての教員が研究授業を実施したりしている。研究授業の際には、管理職をはじめ他の教員が授業を見て、より良い授業になるように意見を交換したり、互いの授業を見合うことにより授業力向上に繋がったりできるようにしている。また、放課後や長期休み中には校内研修会を実施し、教員一人ひとりが学ぶ機会を持ち、指導力向上も図っている。さらに、指導に関する書籍を充実させ、指導に当たって教員が学びやすい環境整備にも努めている。

超過勤務時間が月45時間を超える教職員の割合は、令和3年度では約10%であった。

今後は、子どもがいろいろな手段を使って学びに向かっていくことができるように、学びを支える教育環境の充実をより一層図っていく必要がある。また、働き方改革を進め、超過勤務が月45時間を超える教職員の割合を減少させていく必要がある。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和6年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和6年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

- 令和6年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は94%であり、前年度より3%減少した。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は81%となり、前年度より1%減少した。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和6年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較すると、6年生は-0.01ポイント、5年生は-0.09ポイント、4年生は+0.01ポイントとなり、目標を達成することはできなかった。
- 令和6年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は79%となり、前年度より11%増加した。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、令和6年1月時点で、年間授業日の23.6%となり、目標を達成することができなかった。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合は100%となり、前年度より8%増加した。

(様式 2)

大阪市立大国小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 ○ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。（令和 6 年度 94%） ○ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。（令和 6 年度 81%）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 いじめ・不登校への対応。	B
指標 ○ いじめに発展する前の段階での早期発見、早期解消を図るために、児童アンケートを学期に 1 回実施し、実態の把握に努める。 ○ いじめと認知した場合、事案のすべての解決に取り組む。人権教育会議を月 1 回程度実施し、情報と手立て、今後の方向性を全教職員で共有する。	
取組内容②【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 インクルーシブ教育の推進	B
指標 ○ 令和 6 年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合を、85%以上にする。（令和 6 年度 85%） ○ 令和 6 年度の児童アンケートにおいて、「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしていないようにしている」と肯定的に回答する児童の割合を、88%以上にする。（令和 6 年度 95%）	
取組内容③【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 道徳教育の推進	B
指標 ○ 「褒めて、認めて、励ます」を実践しながら、児童の自尊心や自己肯定感向上に取り組む。 ○ 「かわ」等体験的な学習に系統的に取り組む。 ○ 令和 6 年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合を、88%以上にする。（令和 6 年度 87%）	

取組内容④【基本的な方向 2 豊かな心の育成】		B
人権を尊重する教育の推進		
指標		
○ 性・生教育の年間カリキュラムを作成し、全学年で系統立てて取り組む。		
○ 令和6年度の児童アンケートにおいて、「自分を大切にできている」と肯定的に回答する児童の割合を、88%以上にする。(令和6年度92%)		
年度目標の達成状況や取組の結果と分析		
① いじめに関する児童アンケートを学期に1回実施した。その結果、児童の心の声や悩み、今まで話せなかったことを聞くことができた。また、聞き取った内容について児童が納得のいく解決へ導くこともできた。さらに、人権教育会議では、把握したことについての実態報告を行ったり今後の方向性を共有したりすることができた。		
② 令和6年度の児童アンケートにおいて、「先生や友達に自分の思いや気持ちを話せている」と肯定的に回答する児童の割合は85%であった。また、「友だちの嫌がることをしたり、言ったりしていないようにしている」と肯定的に回答する児童の割合は95%であった。児童にとって、担任だけでなく担当・専科・担外の先生もいつもそばで見守ってくれている、困った時は助けてくれるという安心感があったのだと考える。本校の担任担当制の成果である。また、年度当初に学級目標を立て、学級目標を達成するための仲間づくりに日々取り組んできたことも功を奏した。		
③ 「かわ」等体験的な学習について系統的に計画を立て、毎月実践具合を確認しながら取り組んだ。また、学校全体で「褒めて、認めて、励ます」ことを実践した。しかし、令和6年度の児童アンケートにおいて、「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合は87%であり、目標の88%は達成することができなかった。		
④ 性・生教育の年間カリキュラムに沿って、その学年で教えるべきことを認識し、計画的に指導を行い、指導漏れのないように養護教諭を中心に確認した。令和6年度の児童アンケートにおいて、「自分を大切にできている」と肯定的に回答する児童の割合は92%であり、目標を達成することができた。		
次年度への改善点		
③ 複雑な家庭状況やその児童の特性など、配慮を要する児童が多い。その児童に応じた寄り添い方について、担任と担当、担外の情報交換や協力がさらに必要である。 児童の活動のふりかえりの場が少ない。学級でのふりかえりだけでなく、委員会活動やたてわり班活動の中でもふりかえる活動を行い、自分の良さに気づいたり、成功体験を積んで、自信が持てるようにしていったりする必要がある。たてわり班活動では、低・高学年それぞれに目標を設けると目指す姿がより明確になる。		
④ 性・生教育については、引き続き年間指導計画をもとに、系統立てた指導をしていくが、必要があれば児童の実態に応じて指導内容を工夫していく。		
⑤		

(様式 2)

大阪市立大国小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 ○ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。（令和 6 年度 79%）	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的、対話的で深い学び」の推進 ----- 指標 ○ 令和 6 年度の小学校学力経年調査において、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたり、自分で目標を立てたりしていただいている」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。（令和 6 年度 85%） ○ 令和 6 年度の児童アンケートにおいて、「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできている」と肯定的に回答する児童の割合を、80%以上にする。（令和 6 年度 94%） ○ 芸術鑑賞会、作品展・学習発表会（隔年）を年 1 回実施する。	B
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的、対話的で深い学び」の推進 ----- 指標 ○ 漢字検定の合格률을 70%以上にする。（令和 6 年度 70%） ○ 国語科・算数科の学習を通して基礎基本の学習の定着を図る。 ○ 令和 6 年度の児童アンケートにおいて、「新しい学年になって、自分の中でがんばったことがある」と肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。（令和 6 年度 93%） ○ 一人ひとりの学力を把握し、個に応じた指導を行う。	B
取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 英語教育の強化	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年で週 2 回 1 5 分の英語モジュール学習に取り組む。 ○ 令和 6 年度の児童アンケートにおいて、「英語学習はたのしい」と肯定的に回答する児童の割合を、8 5 %以上にする。(令和 6 年度 9 2 %) 	
<p>取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>体力・運動能力向上のための取組の推進</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健康や姿勢について、日常的な指導や学期に 1 回保健指導を行う。 ○ なわとび等の持久力を高める取り組みに、学校全体で取り組む。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 令和 6 年度の小学校学力経年調査において、「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたり、自分で目標を立てたりしていたと思いますか」と肯定的に回答する児童の割合は、8 5 %であった。1 2 月の学校アンケート「授業中、自分で考えて勉強したり、友だちの考えを聞いたりできている」に肯定的に回答した児童の割合は 9 4 %であった。音楽鑑賞会、作品展、学習発表会を計画的に実施できた。</p> <p>② 漢字検定の合格率は 7 0 %であった。1 2 月の学校アンケート「新しい学年になって、自分の中でがんばったことがある」に肯定的に回答した児童の割合は 9 3 %であった。一人ひとりの学力を把握し、基礎基本の学習の定着、個に応じた指導に努めることができた。</p> <p>③ 1 2 月の学校アンケート「英語学習はたのしい」に肯定的に回答した児童の割合は 9 2 %であった。週 2 回の英語モジュール学習も計画的に行うことができている。</p> <p>④ 保健室前の健康啓発掲示には毎日多くの児童が集まり楽しく健康について学ぶことができた。また、毎日の姿勢体操やあいいうべ体操、身体測定時の保健指導、給食時の姿勢への声掛け、健康委員会の取り組みなどにより、児童の健康への意識が向上した。冬の寒い時期に持久力を高める取り組みも行うことができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>① 国語の研究で学んだ児童同士の交流方法やめあてに対する振り返りをさらに追及していく。</p> <p>② 理解が不十分な児童への個別指導の方法がそれぞれ違う。その方法を児童に関わる教職員で共通理解することが引き続き重要である。漢字検定合格を目標にしている児童が少ない。合格するための意識付けをしていく。</p> <p>③ モジュールの年間計画を年度当初に確認し、必要な CD もそろえる。</p> <p>④ 姿勢体操の音楽が、児童の活動や担任の話の途中で鳴り、流れが途切れることがあるので、時間や方法などを検討していく。健康委員会による清潔調べをもとに、声掛けをしているが、児童の意識に大きな変化はない。より良い方法を検討していく。</p> <p>現状として、取り組み内容の指標としては、全て目標を達成しているが、年度目標を達成することができていない。来年度、取り組み内容の指標の見直しが必要である。</p>	

(様式 2)

大阪市立大田小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 ○ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。(令和 6 年度 1 月時点 23.6%) ○ 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 90%以上にする。(令和 6 年度 100%)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX の推進】 ICT を活用した教育の推進 <hr/> 指標 ○ プログラミング教育の年間カリキュラムに基づき、プログラミング教育に全学年で取り組む。 ○ 令和 6 年度の児童アンケートにおいて「プログラミング教育は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。(令和 6 年度 94%)	B
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織作り】 働き方改革の推進 <hr/> 指標 教職員が心身ともに健康に働くことができる職場づくりに取り組む。 ○ 校務支援システムを活用し、教職員間の情報共有を行うことで、校務に費やすことのできる時間を創出する。 ○ 学期に 1 回産業医先生の指導のもと、安全衛生委員会を開催し、教職員の健康を管理する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① プログラミング教育の年間カリキュラムに基づき、プログラミング教育に取り組むことができた。また、ICT 支援員に true true やコーディーロッキーの指導法を教えてもらったり、算数科を中心にインターネット教材を提案してもらったりしたおかげで、ICT を活用した教育を進めることができた。令和 6 年度の児童アンケートにおいて「プログラミング教育は楽しい」と肯定的に回答した児童の割合は 94%であり、目標を達成することができた。	

② ミマモルメの普及率を100%に近づけるため、未加入世帯に毎回懇談で声を掛けた。その結果、ミマモルメの普及率が上がってきている。しかし、まだ連絡なしの遅刻や欠席は多い。一方、教職員間では校務支援システムの活用で会議を減らすことができ、校務に費やす時間を増やすことができた。安全衛生委員会も計画的に開催された。

次年度への改善点

- ① 新しいプログラミング教材について児童に指導することができるよう、校内研修を開いたり、休業中などを利用して学んだりするようにする。
- ② ミマモルメの返信機能を使えるようにする。（具体的には、警報時の連絡や懇談会の日程調整、水泳参加カードなど。）